

河川分科会河川整備基本方針検討小委員会報告

(雄物川水系、小矢部川水系、円山川水系、旭川水系)

小委員会開催

- ・ 雄物川水系、小矢部川水系：9月6日、9月26日
- ・ 円山川水系、旭川水系：9月18日、10月3日

各水系に関する主な委員意見、質問とこれに対する対応、説明

雄物川水系

(河道計画)

【意見】放水路部で掘削を実施することだが、床固が現在の河床に対して、どういう役割を果たしているのか確認が必要である。

【説明】雄物川放水路建設時に設置された3基の床固により、放水路区間及び上流の河床はほぼ安定しており、旧雄物川への低水分派やその上流の河川横断構造物や取水施設等の機能維持に役立っている。

(水質)

【意見】玉川ダムが出来る以前からの水質、透明度、生物の生息状況について説明すべき。

【説明】玉川の酸性水対策は昭和初期に地下溶透法及び田沢湖導水を行い、昭和

後期には酸性水を石灰に散水して中和し、近年は玉川ダム事業の一環で中和処理施設を整備し、大幅に改善している。透明度は、河水統制計画時代を含め、下がっており近年大きな変化がない。生物の生息状況については、中和処理施設の中和以降、玉川での魚類の生息環境が大きく改善している。

(外来種)

【意見】外来種のアレチウリ、ハリエンジュについて、問題点や対応などを記載すべき。

【対応】本文に記載することとした。

小矢部川水系

(河道計画)

【意見】河口部の堤防のない区間が港湾区域となっているが、連続堤の整備が難しい場合、人家だけでも安全を確保できないか。

【説明・対応】特定重要港湾伏木富山港の利用状況や住宅の集積状況等を踏まえ、必要な対策を実施することとし、本文に記載することとした。

【意見】小矢部川流域の右岸側は庄川の想定氾濫区域であり、庄川による洪水被害の方が大きいことも考慮すべき。

【説明・対応】小矢部川流域の右岸側は、庄川の氾濫域と重なることを考慮し、庄川の氾濫による影響を踏まえ地域特性にあった治水対策を講じ治水安全

度を向上させることとし、本文に記載することとした。

円山川水系

(治水対策)

【意見】河口は水が流れにくく、河道に負荷をかけるのは難しいのではないか。

【対応】本文に記載することとした。

【質問】現在、輪中堤や避難体制はどのようなことが考えられているのか。

【説明】下流無堤部において洪水に強い地域づくりを推進するため、国・県・市・住民をメンバーとする「円山川下流部治水対策協議会」を設置し、避難路や輪中堤等について検討しており、今津地区では県道や JR が並行し走っており、短期間での堤防整備が困難なため、家屋の安全を確保するために輪中堤を整備している。また、梶原地区では六方川の水はけが悪いため内水被害が頻発しており、六方川と鎌谷川沿いに輪中堤を整備している。さらに、避難体制の充実を図るために、居住地域をハザードマップに見立てた「まるごとまちごとハザードマップ」を設置している。

(河川環境)

【質問】コウノトリとの共生は重要だが、河川はどのような役割を分担しているのか。

【説明】国、県、市、企業、住民、NPO 等の役割分担のもと、コウノトリと共生する地域づくりとして環境整備事業、放鳥事業、普及啓発を実施しており、河川で

は、コウノトリの餌場となる湿地の再生、魚類等の移動を確保するために堰の落差改善等を実施している。

旭川水系

(河道計画)

【意見】旭川は樹木が生えており流下能力不足の要因となっている一方で、水位を上昇させ百間川に水を流入させている。歴史的構造物としての越流堤を残すことだけでなく、樹木伐開による河積の確保との関係も踏まえ、百間川への適正な分派方法を検討する必要があるのではないか。

【説明・対応】現在は樹木による水位上昇のため百間川に分派しやすくなっているが、一方で樹木は流下能力不足の大きな要因となっており、その解消のために伐開が必要なほか、越流堤としての一の荒手、二の荒手、背割堤等の構造の見直しが必要であるため、樹木伐開にあわせた適切な分派構造を模型実験等により検討する。また、計画規模を上回る洪水に対しても適正な分派等による被害の軽減を図るとともに、分派量に影響を及ぼす樹木等の管理を適正に実施することとし、本文に記載することとした。

(水質)

【質問】百間川の水質については、親水空間としての位置づけもあるため、現在の環境基準(C 類型)を満足するだけでなく、さらに改善していくべきではないか、流入量が少ないが水質の改善が可能なのか。

【説明・対応】グラウンド・公園利用の多い百間川上流域区間では、環境基準(5mg/l、C 類型)より厳しい目標水質(3mg/l、B 類型相当)を設定して水質浄化対策を実施し、一定の水質改善が見られている。今後も調査検討を行い必要な対策を推進するほか、環境基準だけでなく多様な視点で評価を行い、水質の改善に努めることとし、本文に記載することとした。

河川整備基本方針検討小委員会 名簿
雄物川水系、小矢部川水系、円山川水系、旭川水系

委員長	近藤	徹	(財)水資源協会理事長
委員	綾	日出教	(社)日本工業用水協会顧問
委員	池田	啓	兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授
委員	池淵	周一	京都大学名誉教授
委員	石島	操	全国森林組合連合会代表理事専務
委員	入江	登志男	(財)給水工事技術振興財団専務理事
委員	内田	和子	岡山大学大学院社会文化科学研究科教授
委員	岡本	敬三	(財)林業土木コンサルタンツ顧問
委員	岸井	隆幸	日本大学理工学部教授
委員	楠田	哲也	北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授
委員	小池	俊雄	東京大学大学院工学研究系社会基盤工学専攻教授
委員	越澤	明	北海道大学大学院工学研究科教授
委員	坂本	弘道	(社)日本水道工業団体連合会専務理事
委員	佐藤	準	全国土地改良事業団体連合会専務理事
委員	澤本	正樹	東北大学大学院工学研究科教授
委員	新明	政夫	小矢部市消防団石動第三分団長
委員	谷田	一三	大阪府立大学大学院理学系研究科生物学専攻教授
委員	辻本	哲郎	名古屋大学大学院工学研究科教授
委員	中川	一	京都大学防災研究所流域災害研究センター教授
委員	福岡	捷二	中央大学研究開発機構教授
委員	船山	仁	NPO法人秋田パドラーズ理事長
委員	虫明	功臣	福島大学理工学群共生システム理工学類教授

- 委員 森 誠 一 岐阜経済大学経済学部教授
- 委員 森 田 昌 史 (財)日本水土総合研究所理事長
- 委員 寺 田 典 城 秋田県知事
 (代理)藤 田 博 美 秋田県建設交通部河川砂防課流域防災監
 (代理)佐々木 卓 郎 秋田県建設交通部次長
- 委員 石 井 隆 一 富山県知事
 (代理)井 波 久 治 富山県土木部次長
- 委員 井 戸 敏 三 兵庫県知事
 (代理)池 田 茂 兵庫県理事
 (代理)森 田 伸 二 兵庫県県土整備部土木局河川計画課長
- 委員 石 井 正 弘 岡山県知事
 (代理)西 本 善 夫 岡山県東京事務所長
 (代理)古 埜 雅 士 岡山県土木部河川課長